

令和7年度 第1回 球磨川水系学識者懇談会 訂正内容

訂正前

訂正後

3. 事業の投資効果(B/Cでは計測できない効果) 16

3. 事業の投資効果(B/Cでは計測できない効果) 16

河川整備計画対象規模(人吉:1/50、横石:1/80)の洪水における効果

河川整備計画対象規模(人吉:1/50、横石:1/80)の洪水における効果

○貨幣換算が困難なためB/Cでは計測していないが、事業実施により、最大孤立者数(避難率40%)は約23,700人、想定死者数(避難率40%)は約90人減少し、人的被害・波及被害ともに大幅に軽減される。

○貨幣換算が困難なためB/Cでは計測していないが、事業実施により、**最大孤立者数(避難率40%)は23,730人が32人に、想定死者数(避難率40%)は92人が1人に減少し、**人的被害・波及被害ともに大幅に軽減される。

※1 最大孤立者数は、避難が困難となる水深を災害時要保護者³(30cm)と災害時要保護者以外(50cm)に分けて設定、避難率は0%、40%、80%として算出
 ※2 想定死者数は、LIFESimモデルをベースとしたモデルに基づき、年齢別、住居階数別、浸水深別の死亡率を用いて、避難率は0%、40%、80%として算出
 注:災害時要保護者:高齢者(65歳以上)、障がい者、乳幼児、妊婦等

※1 最大孤立者数は、避難が困難となる水深を災害時要保護者³(30cm)と災害時要保護者以外(50cm)に分けて設定、避難率は0%、40%、80%として算出
 ※2 想定死者数は、LIFESimモデルをベースとしたモデルに基づき、年齢別、住居階数別、浸水深別の死亡率を用いて、避難率は0%、40%、80%として算出
 注:災害時要保護者:高齢者(65歳以上)、障がい者、乳幼児、妊婦等

<人的被害>

<人的被害>

最大孤立者数(人)

最大孤立者数(人)

		整備前		整備後
最大孤立者数(人)	避難率 0%	39,548人	⇒	52人
	避難率 40%	23,730人	⇒	32人
	避難率 80%	7,911人	⇒	11人

想定死者数(人)

		整備前		整備後
想定死者数(人)	避難率 0%	151人	⇒	1人
	避難率 40%	92人	⇒	1人
	避難率 80%	34人	⇒	1人

想定死者数(人)

		整備前		整備後
想定死者数(人)	避難率 0%	151人	⇒	1人
	避難率 40%	92人	⇒	1人
	避難率 80%	34人	⇒	1人

<波及被害>

<波及被害>

	整備前		整備後
交通途絶(路線)	12路線	⇒	3路線
電力停止による影響人口	20,634人	⇒	2人
通信停止による影響人口	20,787人	⇒	2人
浸水により被災する事業所の従業員者数	19,751人	⇒	11人

	整備前		整備後
交通途絶(路線)	12路線	⇒	3路線
電力停止による影響人口	20,634人	⇒	2人
通信停止による影響人口	20,787人	⇒	2人
浸水により被災する事業所の従業員者数	19,751人	⇒	11人

※ダム完成時河道におけるダム整備前後の比較
 ※上記整備効果については、川辺川合流点より下流で算出した結果である。

※ダム完成時河道におけるダム整備前後の比較
 ※上記整備効果については、川辺川合流点より下流で算出した結果である。

— 訂正箇所

訂正内容

- ・ 文章を訂正

令和7年度 第1回 球磨川水系学識者懇談会 訂正内容

訂正前

訂正後

3. 事業の投資効果(B/Cでは計測できない効果) 17

3. 事業の投資効果(B/Cでは計測できない効果) 17

河川整備基本方針対象規模(人吉:1/80、横石:1/100)の洪水における効果

河川整備基本方針対象規模(人吉:1/80、横石:1/100)の洪水における効果

○貨幣換算が困難なためB/Cでは計測していないが、事業実施により、最大孤立者数(避難率40%)は約22,100人、想定死者数(避難率40%)は約150人減少し、人的被害・波及被害ともに大幅に軽減される。

○貨幣換算が困難なためB/Cでは計測していないが、事業実施により、最大孤立者数(避難率40%)は26,161人が4,059人に、想定死者数(避難率40%)は154人が4人に減少し、人的被害・波及被害ともに大幅に軽減される。

※1 最大孤立者数は、避難が困難となる水深を災害時要保護者^①(30cm)と災害時要保護者以外(50cm)に分けて設定、避難率は0%、40%、80%として算出
 ※2 想定死者数は、LIFESimモデルをベースとしたモデルに基づき、年齢別、住居階数別、浸水深別の死亡率を用いて、避難率は0%、40%、80%として算出
 注:災害時要保護者:高齢者(65歳以上)、障がい者、乳幼児、妊婦等

※1 最大孤立者数は、避難が困難となる水深を災害時要保護者^①(30cm)と災害時要保護者以外(50cm)に分けて設定、避難率は0%、40%、80%として算出
 ※2 想定死者数は、LIFESimモデルをベースとしたモデルに基づき、年齢別、住居階数別、浸水深別の死亡率を用いて、避難率は0%、40%、80%として算出
 注:災害時要保護者:高齢者(65歳以上)、障がい者、乳幼児、妊婦等

<人的被害>

<人的被害>

最大孤立者数(人)

想定死者数(人)

最大孤立者数(人)

想定死者数(人)

		整備前		整備後
最大 孤立者数 (人)	避難率 0%	43,601人	⇒	6,766人
	避難率 40%	26,161人	⇒	4,059人
	避難率 80%	8,723人	⇒	1,354人

		整備前		整備後
想定 死者数 (人)	避難率 0%	253人	⇒	5人
	避難率 40%	154人	⇒	4人
	避難率 80%	53人	⇒	3人

		整備前		整備後
最大 孤立者数 (人)	避難率 0%	43,601人	⇒	6,766人
	避難率 40%	26,161人	⇒	4,059人
	避難率 80%	8,723人	⇒	1,354人

		整備前		整備後
想定 死者数 (人)	避難率 0%	253人	⇒	5人
	避難率 40%	154人	⇒	4人
	避難率 80%	53人	⇒	3人

<波及被害>

<波及被害>

	整備前		整備後
交通途絶(路線)	13路線	⇒	10路線
電力停止による影響人口	23,742人	⇒	3,056人
通信停止による影響人口	23,929人	⇒	3,073人
浸水により被災する事業所の従業員数	22,098人	⇒	2,993人

	整備前		整備後
交通途絶(路線)	13路線	⇒	10路線
電力停止による影響人口	23,742人	⇒	3,056人
通信停止による影響人口	23,929人	⇒	3,073人
浸水により被災する事業所の従業員数	22,098人	⇒	2,993人

※ダム完成時河道におけるダム整備前後の比較
 ※上記整備効果については、川辺川合流点より下流で算出した結果である。

※ダム完成時河道におけるダム整備前後の比較
※上記整備効果については、川辺川合流点より下流で算出した結果である。

— 訂正箇所

訂正内容

- ・ 文章を訂正

令和7年度 第1回 球磨川水系学識者懇談会 訂正内容

訂正前

訂正後

4. 事業の進捗状況 (地域のご理解を頂くための取組) 37

4. 事業の進捗状況 (地域のご理解を頂くための取組) 37

○ダムの効果や仕組み、事業の進捗、環境対策について、地域の方々を対象とした説明会や流域の市町村職員を対象とした研修会を実施。
○五木村、相良村、人吉市の小中学生等を対象に川辺川をフィールドとした環境教育、特別授業(探求学習)を実施

○ダムの効果や仕組み、事業の進捗、環境対策について、地域の方々を対象とした説明会や流域の市町村職員を対象とした研修会を自治体と連携して開催し、その中で地域の皆様からのご意見をお聞きしている。
○五木村、相良村、人吉市の小中学生等を対象に川辺川をフィールドとした環境教育、特別授業(探求学習)を開催し、川辺川について学んでいたくとも、子供ならではの視点や関心事の把握に努めている。

<p>五木村村民説明会 五木村、熊本県と連携し、流水型ダムの治水効果や環境影響、環境保全の取組、事業の進捗、地域振興の取組等を説明。</p>  <p>(令和6年2月3日、2月4日) (令和7年2月16日)</p>	<p>相良村村民説明会 相良村、熊本県、八代河川国道事務所と連携し、流水型ダムの治水効果や環境影響、環境保全の取組、事業の進捗、地域振興の取組等を説明。</p>  <p>(令和5年5月21日) (令和6年6月29日) (令和7年6月29日)</p>
<p>自治体職員を対象とした研修会(人吉市、球磨村、八代市) 住民に一番身近な行政機関である流域の市町村職員が、「緑の流域治水」の各取組を自分事としてとらえ、更に理解を深めることを目的に実施</p>  <p>人吉市役所 (R6.9) 球磨村役場 (R6.12) 八代市役所 (R7.2)</p>	<p>令和6年度から開始「川辺川アカデミア」の取組 学びや地域活性化のため、住民、民間事業者、学識者、行政が手を結び、川辺川ならではの環境を活かして、ソフト、ハード事業の両面から持続的に取り組む活動を開始(この取組の総称が「川辺川アカデミア」)</p>  <p>相良南小学校特別授業 (R7.7) 相良中、相良北小特別授業 (R7.3、R7.5)</p>

<p>五木村村民説明会 五木村、熊本県と連携し、流水型ダムの治水効果や環境影響、環境保全の取組、事業の進捗、地域振興の取組等を説明。</p>  <p>(令和6年2月3日、2月4日) (令和7年2月16日)</p>	<p>相良村村民説明会 相良村、熊本県、八代河川国道事務所と連携し、流水型ダムの治水効果や環境影響、環境保全の取組、事業の進捗、地域振興の取組等を説明。</p>  <p>(令和5年5月21日) (令和6年6月29日) (令和7年6月29日)</p>
<p>自治体職員を対象とした研修会(人吉市、球磨村、八代市) 住民に一番身近な行政機関である流域の市町村職員が、「緑の流域治水」の各取組を自分事としてとらえ、更に理解を深めることを目的に実施</p>  <p>人吉市役所 (R6.9) 球磨村役場 (R6.12) 八代市役所 (R7.2)</p>	<p>令和6年度から開始「川辺川アカデミア」の取組 学びや地域活性化のため、住民、民間事業者、学識者、行政が手を結び、川辺川ならではの環境を活かして、ソフト、ハード事業の両面から持続的に取り組む活動を開始(この取組の総称が「川辺川アカデミア」)</p>  <p>相良南小学校特別授業 (R7.7) 相良中、相良北小特別授業 (R7.3、R7.5)</p>

— 訂正箇所

訂正内容

- ・ 文章を訂正